



**原子分子材料科学高等研究機構**  
**WPI Advanced Institute for Materials Research**

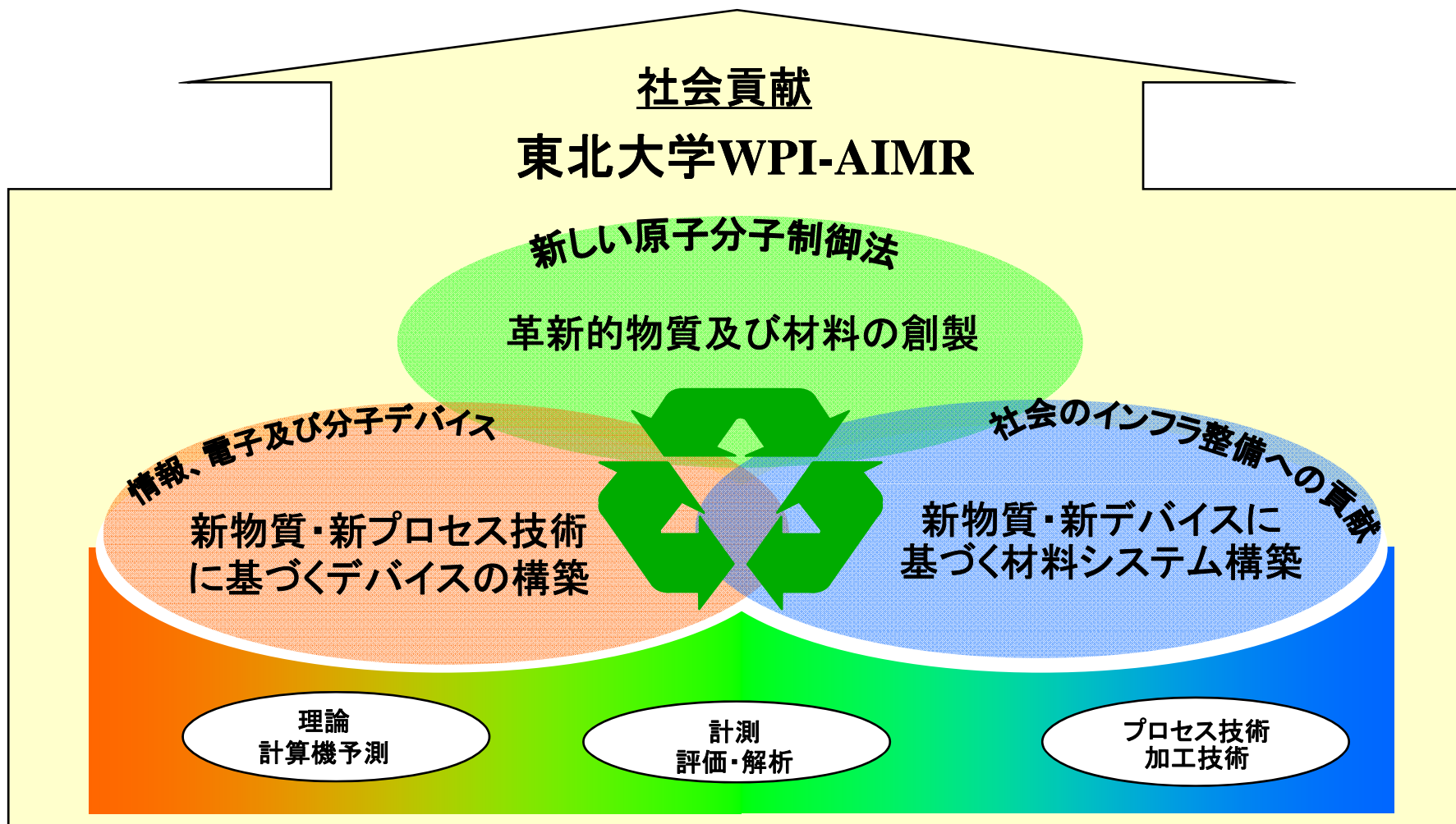
**東 北 大 学**

## 拠点構想の概要

- (1) 材料科学に関する革新的研究を展開し、世界トップレベルの研究拠点を構築する。
- (2) 日本のトラディショナルな研究システム及び運営システムを改革し、世界トップレベル研究拠点にふさわしいシステムを構築する。
- (3) 連携機関及びサテライトとの共同研究を通じて国際連携を強化し、「目に見える拠点」を構築する。

# 研究領域及び目的

新しい革新的機能をもつ材料を創製し、社会に貢献する



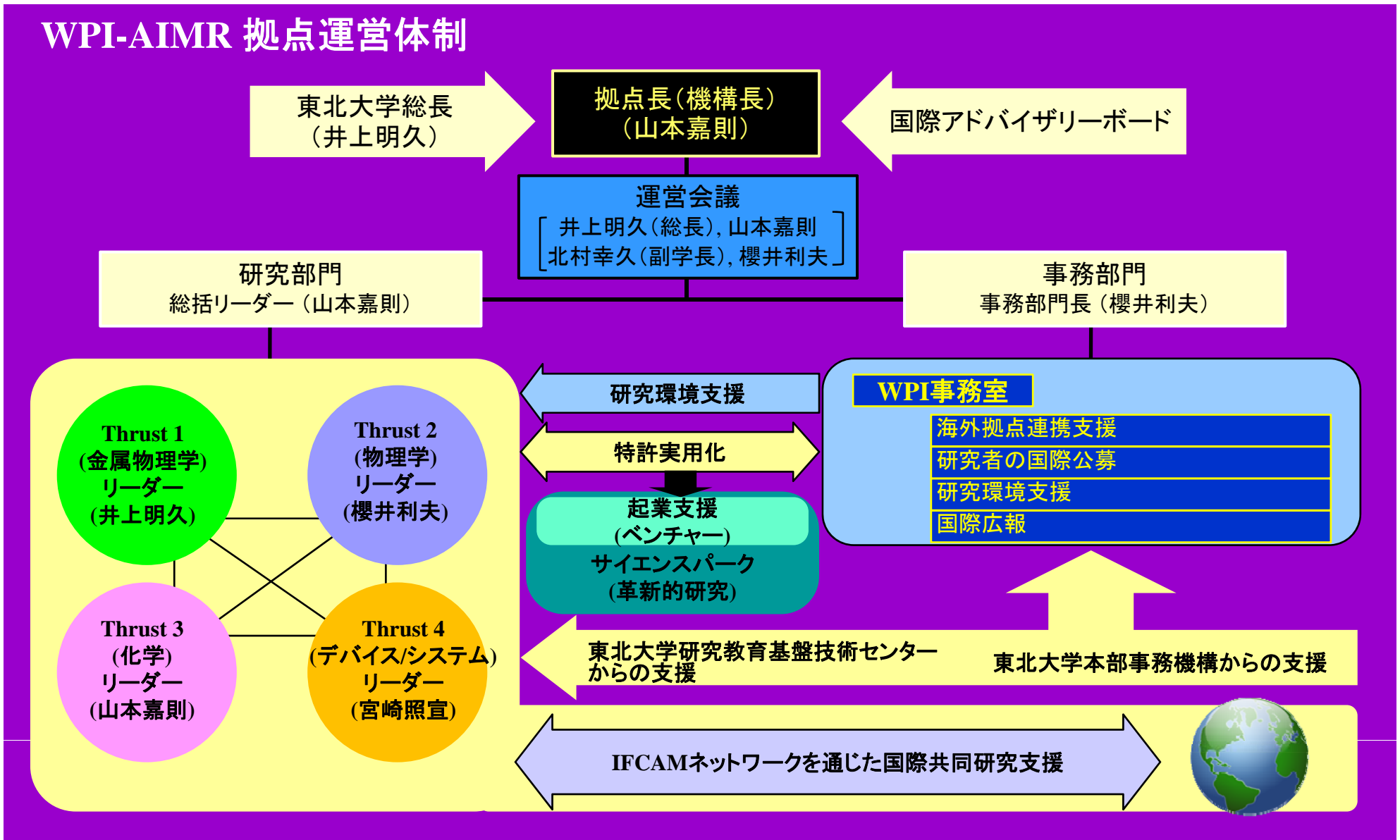
# WPI-AIMRの拠点運営

## (1) 研究者及び事務スタッフの構成

	発足時の 当初計画	2007年度末の 当初計画	最終目標 (2008年10月)	2008年4月現在 の現員数
主任研究者	30	30	30	30
東北大学から	15	15	15	15
外国機関から	11	11	11	11
国内機関から	4	4	4	4
その他の研究者	30	60	90	52
研究支援スタッフ	44	44	53	8
事務スタッフ	35	35	40	22(37*)
合計	139	169	213	112(127*)

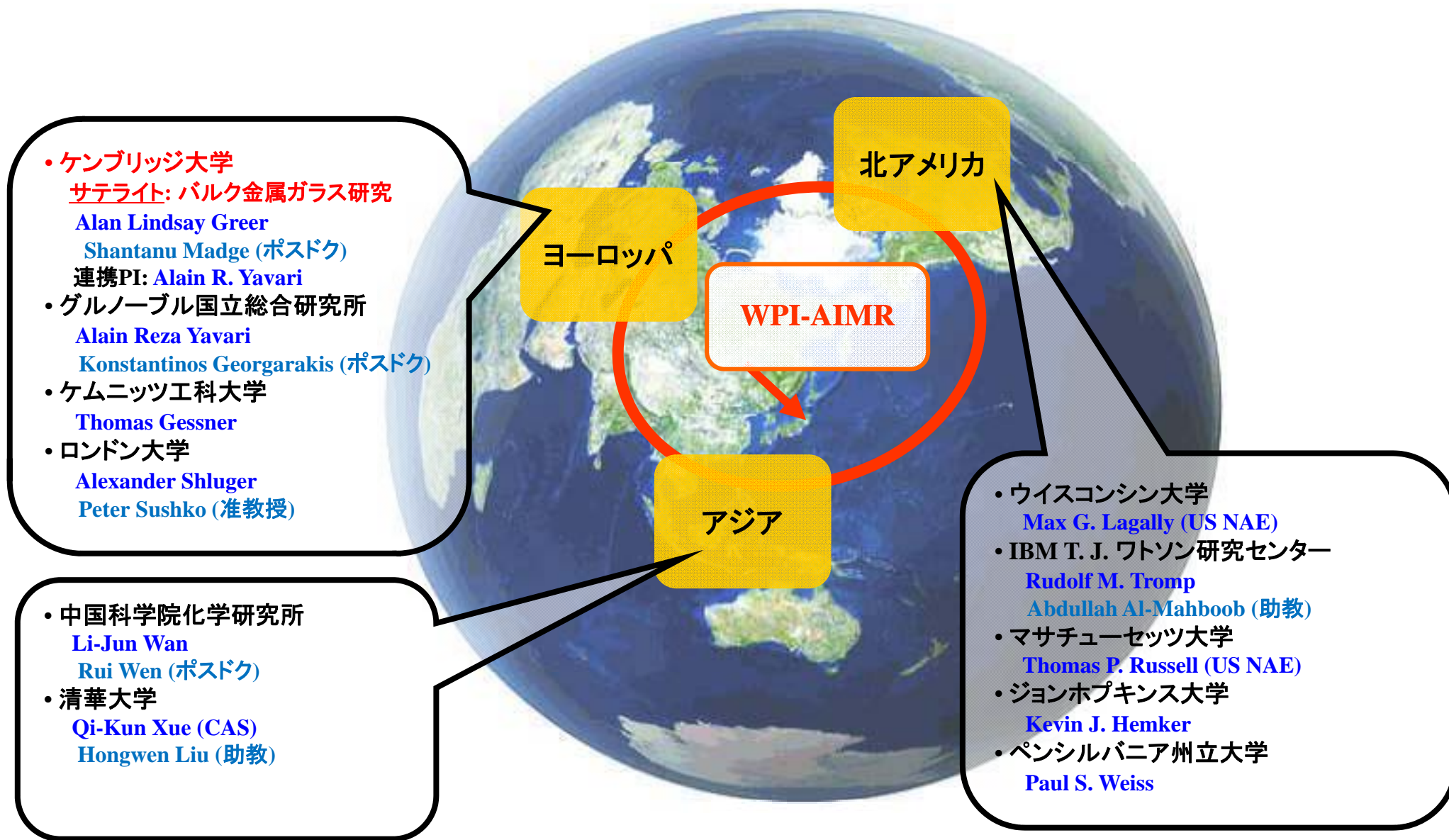
\* ( )内はWPI-AIMR兼務の本部事務機構スタッフを含む

## (2) 拠点内の意志決定システム及び 拠点長とホスト機関側の権限の分担





### (3) サテライトと連携機関（国際連携）



# 拠点の研究環境

- (1) 主任研究者の身分; Distinguished Professor  
その他の研究者; 事務的日常生活の免除
- (2) スタートアップ資金; 2007年度は**129 百万円**を研究者に配分
- (3) 研究者の公募方法; 国際公募  
ホームページ; 東北大学, WPI-AIMR, JST 及びその他関連学会  
雑誌; Nature, Science 及びその他著名国際誌  
ジャーナル; 関連学会誌  
→ 国内外から**300名以上**の応募
- (4) 事務スタッフの英語力; 英語による業務可能な事務職員を配置、英会話学校での研修による英語力の向上
- (5) 評価及び実績主義に基づく報酬;
- (6) 国際会議及びシンポジウム;  
WPI-AIMR開所式及びテクニカルセッション; 2007年11月15-16日  
第1回WPI-IFCAM ワークショップ; 2008年2月18-19日
- (7) 研究スペース

# 研究スペース; 現状と将来計画

## 研究スペースの整備

◇WPI-AIMRが使用している既存スペース

**4,500m<sup>2</sup>**

◇WPI-AIMR管理棟 (金属材料研究所IFCAM棟)

**600m<sup>2</sup>**

◇多元物質科学研究所反応化学研究棟 (改修工事)

**2,500m<sup>2</sup>**

◇インテグレーションラボ棟, 第1期 & 第2期 (新設)

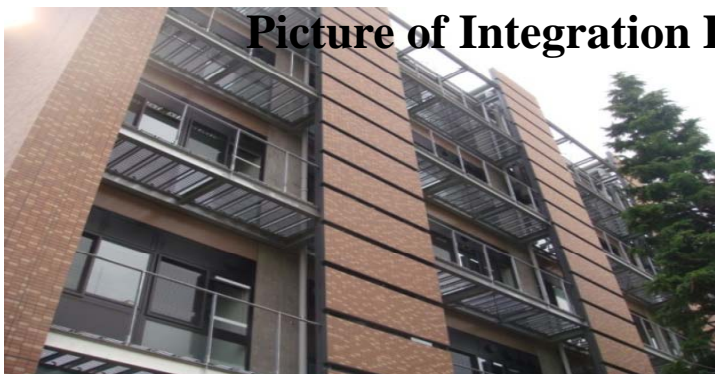
**9,000m<sup>2</sup>** (2007年度: 3,650m<sup>2</sup> 2008年度: 5,350m<sup>2</sup>)

◇インテグレーションラボ棟, 第3期 (将来計画)

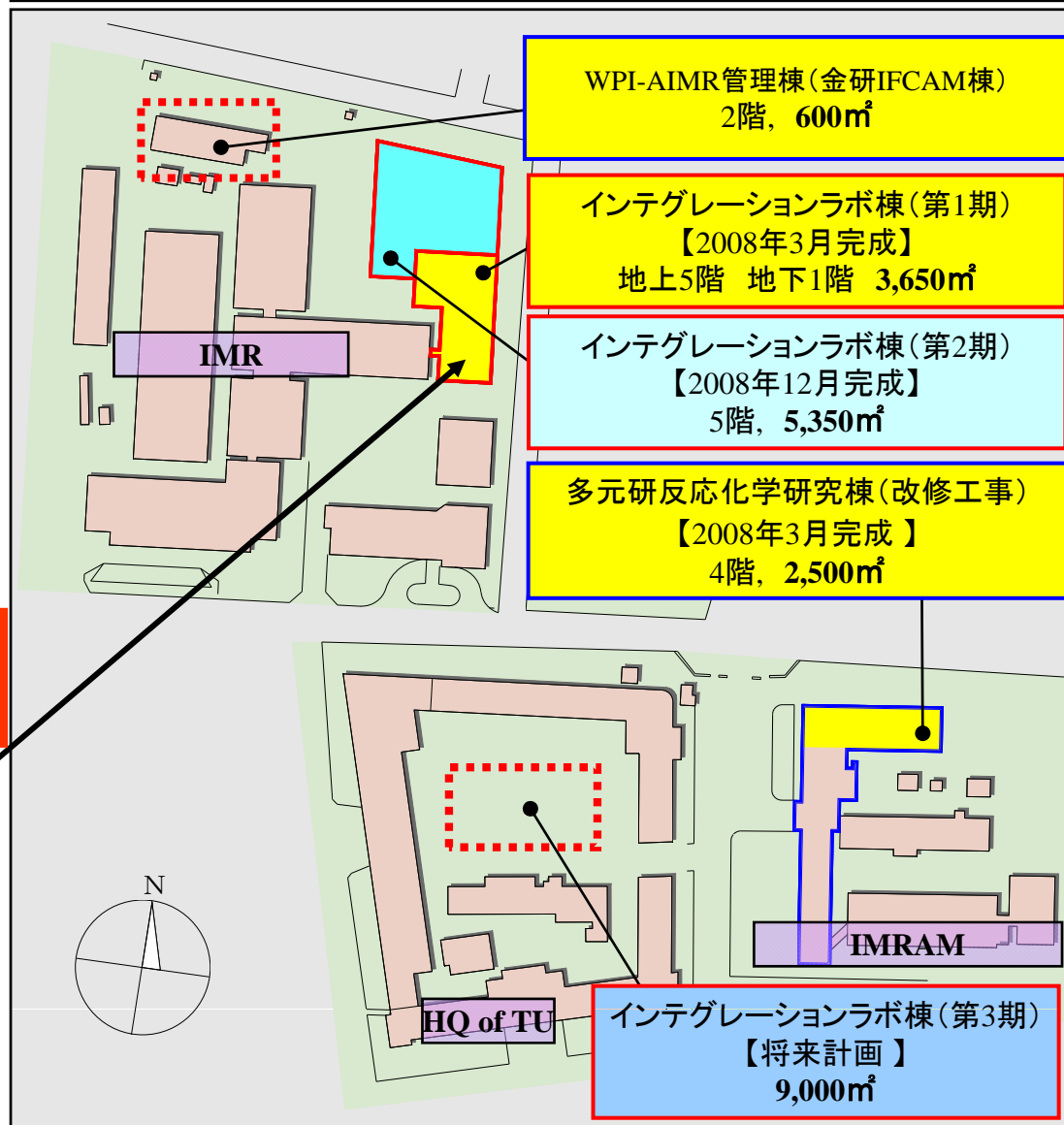
**9,000m<sup>2</sup>**

**25,600m<sup>2</sup>**

Picture of Integration Lab



## 研究スペース整備計画【片平キャンパス】





# 世界におけるレベルを評価する際の指標・方法

## (1) 研究業績

通常の評価指標; 出版物,  
論文被引用数,  
国際的受賞,  
ISI引用度によるランキング  
有用な材料開発による目に見える社会貢献

井上明久教授が **米国National Academy of Engineering (NAE)**のメンバーに選ばれた。  
T. P. Russell教授が **NAE**のメンバーに選ばれた。  
宮崎教授が**朝日賞**を受賞した。

## (2) いかに世界中からトップレベルの材料科学研究者を引きつけるか

全研究者に占める**外国人研究者の割合** ;  
拠点構想申請時の最低条件, **30%**

2008年4月現在の外国人割合 **39%**  
(PI: 40%, その他の研究者: 38%)